

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	生きがい活動通所支援事業				
担 当 課 係 名	長寿子育て課		長寿いきがい係	作成者	新田目留美子
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	すべての生命を慈しむ健康福祉のまち			総合計画の ページ
	基本計画	高齢者福祉と介護保険事業の充実			
	主要施策	高齢者介護予防の推進			53
予 算 費 目	一般 会計	3 款 民生費	1 項 社会福祉費	6 目 多世代交流施設費	
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	仙北市高齢者生きがい通所事業実施規則、仙北市高齢者生きがい通所事業使用料条例				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象（誰のため・何を）	市内居住のおおむね65歳以上の高齢者のうち介護保険法によるサービス対象外の自立した高齢者
事業の目的・意図（どういう状態にしたいのか）	通所事業に参加することにより生きがい感を高揚させたり、住み慣れた地域社会の中で引き続き生活できる状態を維持できるようにするため。
事業の内容（どのような業務、活動を行うのか）	生活指導（相談活動）、機能訓練（日常動作訓練）、健康状態の確認、入浴サービス、送迎。パート職員6名のローテーションで事業実施。

【事務事業の推移】

項 目		単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績
効果	活動指標	目標	人	1,200	800
		実績	人	1,039	774
		達成度	%	86.6%	96.3%
	成果指標	目標	%	100.0	100.0
		実績	%	66.0	96.2
		達成度	%	66.0%	96.2%
投下コスト	項 目	総事業費	18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)
	事業費（人件費を除く）(A)		5,165	2,842	3,100
	人 件 費 (B)		785	807	793
	職 員 数		0.10	0.10	0.10
	職 員 平 均 人 件 費		7,853	8,071	7,925
	(A) + (B) 投下コスト		5,950	3,649	3,893
	財源内訳	国 庫 支 出 金	0	0	0
		県 支 出 金	0	0	0
		地 方 債	0	0	0
		そ の 他	311	231	232
		一 般 財 源	5,639	3,418	3,661
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		5,727	4,739	5,030
	市民1人当たりのコスト(円)		187	116	125

【事務事業の今までの成果】

社会福祉協議会への委託から、市直営にしてパート職員で対応している。パートは地元住民を雇用している。利用者へのサービス低下を招くことなく運営している。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	開設当初は介護予防補助金があったが、現在は補助は無し。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	社会福祉協議会への委託でなくなったことから、19年度は様々な不安や苦情があったようだが、現在は市直営の方針を理解して利用いただいている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
C 2	A 現状のまま継続（実施）	経費節減につながる方向を検討し委託から市直営に見直し、内容を大きく変えることなく事業を運営している。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

指定管理の検討。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
C 2	介護予防を図る観点からみて有効な事業ですが、今後の利用見込みを考慮の上、より妥当な事業実施方法がないか検討が必要と考えます。

一次評価診断図

